

HOPES

ホープス セカンド
2nd

震災。一時は牛の相場が下
震災。一時は牛の相場が下
震災。一時は牛の相場が下



村の牛飼いの仲間にになりたい

天野 浩樹さん（大久保・外内）

埼玉県の出身で、地元で建設業に就いていた天野さん。相馬市に住む父方の祖父から「いのちに来て、勤めながらでも手伝わないか」と誘われたのが就農のきっかけです。

牛の品評会に出かけたり、技術指導を受けたりして、「牛の面白さ」に触れていました。「牛をやろう。牛舎を増築して、牛を増やそ」。

その準備を進める中での震災。一時は牛の相場が下

になり、兄妹の絆も深まったそう。天野さんの牛舎は、村などの支援を受け伊丹沢地区に整備される予定です。

「きちんと決まつたら、地域の方にいれいをして、集まりにも顔を出したい。耕作放棄地を減らし、WCSは営農組合のものを購入するなど、少しでもお役に立て、仲間にしたい」と頑張りたいと語ります。



相馬市在住の祖父の畜産業を引き継いだ天野さん。事業の拡大を志し家族で村に移住しました。2人の子ども達は「までの里のこども園」に通っています。2月には第3子が誕生予定。

山田豊さん（関根・松塚）の牛舎の一部を間借りして牛を少しづつ運んでいます。「皆さんによくしていただいています」。天野さんの新しい牛舎の完成は、来年度中になる見込み。

がり）のまま進むべきかを考えましたが、「器用じゃないの、やはり自分は牛一本でもううと。祖父から畜産業の名義を委譲してもらいました」。そして、当時相馬市に避難していた佐藤一郎さん（大倉）と出会い、思いを語り合う中で、村への移住を考えるようになりました。

家族での移住はこの10月。「嫁の後押しが大きかった」

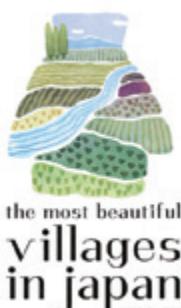
そうです。待機児童だった長男もいじも園に通えるようになり、兄妹の絆も深まつたそう。天野さんの牛舎は、村などの支援を受け伊丹沢地区に整備される予定です。

「きちんと決まつたら、地域の方にいれいをして、集まりにも顔を出したい。耕作放棄地を減らし、WCSは営農組合のものを購入するなど、少しでもお役に立て、仲間にしたい」と頑張りたいと思いま

※WCS：ホールクロップサイレージ

（編集後記）

32



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。